再建案という名の企業整備

そのなかみは首切りと賃下げ・職制支配の復活強化

月に四千円も賃下げ

私たちはいま一カ月二・〇〇〇円（一万八〇円）の賃金引上げの要求をだして闘っています。ところが会社の回答は「不況だ」「支払い能力がないから」といいがかりをつけて、ゼロ回答です。

それだけでなく、企業再建の攻撃で大巾な「賃下げ」をしようとしています。もし公休出勤や残業を会社のいうように半分以上もケズつたとしたら、一体どれだけの「減賃」になるでしょうか。その試算をしたのがD表です。一カ月に四・〇〇〇円からの減賃でたいへんなことになります。いまでさえくるしい生活を残業や公休出勤でやつとささえている細い生活から一カ月に四・〇〇〇円ももぎとられたら生活のたてようがなくなります。

だから、企業整備に反対して闘うのは当然のことです。

減収試算表

（D）

区分	早出連勤減額	残業減額	公休出勤減額	勤精金額	賞与額	34円精算減額	50銭減額	計
坑外成人男子	2,785	771	257		205			4,018
坑外保護鉱夫	1,105	141	79		50			1,375
坑内固定給	632	1,885	181		156			2,855
坑外請負給	1,162	1,422	257		205			3,046
坑内請負給	2,346	1,454	195		157			4,152

【註】(1)昭和33年10月～12月実績による。
(2)減額はすべて会社提案の100%の場合である。
(3)深夜割増は除きます。

会社提案による入替中止の場合五年後の人員推移

（E）

	34年	35年	36年	37年	38年	計
採用	170	170	170	20	20	550
退職	206	317	371	396	468	1,758
増減	−36	−147	−201	−376	−448	−1,208

但し
採用…鉱業学校卒業生一五〇名及び公死即時採用（年間二〇名）
退職…停年退職者＋自己都合その他を五〇名とみて計算

長計協定後の人員移動調

（F）

	下/30	上/31	下/31	上/32	下/32	上/33	10～12/33	計
採用	69	237	228	195	328	189	238	1,484
退職	116	165	250	184	238	215	240	1,407
増減	−47	72	−22	11	90	−25	−2	77

たいへんな人べらしだ

会社は縫製がかさんで人があまるので鉱業学校を廃止し、入替採用を中止するといつています。いつたい私たちの職場はそんなに人がダブついているのでしようか?。

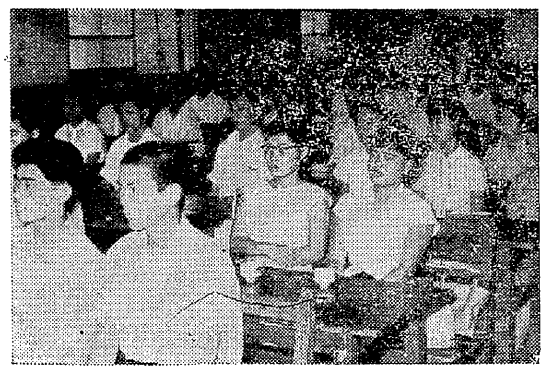
F表にみられるように、三池でも入替採用がはじまつてから今日まで、多くの仲間が職場にはいつてはきましたけれど、逆にヤマを去つていく人は年々増加しております。

差引き四年間で、わずか七十七名がふえたにすぎません。しかし、このなかには鉱業学校を卒業した年々一五〇名の人たちもふくまれていますので会社のいうように入替採用で人員がふえてはいないのです。

鉱業学校については、経費が多くなつたし人員を吸収しきれなくなつたので、中止するといつています。

かりに、そうなつたとして、いつたいどのくらいの人べらしになるかを五表でみると、五年後には、三池だけでも一・二〇〇人からの人べらしとなります。

そればかりではありません。もつと大切なことは、会社が〝希望退職〟という名目で首を切るといつていることです。



私たちは、会社がどんな〝きれいごと〟をならべようと、それが会社の「もうけ」のための私たちにたいする一方的なシワよせである限り承知できません。

それに昭和三十年の長計闘争いらい、入替採用は生活苦と就職難になやむ暗い家庭の、明るい灯となつていました。その灯を消されてはたまりません。また鉱業学校の廃止は、大きな社会問題でもあります。

会社は長計協定で「完全雇用を会社経営の第一方針とする」と約束しておきながら、約束をやぶつたばかりでなく、逆に「人べらし」を強要してきたのです。

写真は入替採用で組合教育をうけている新しく組合員になつた仲間たち。

これで保安が守られるか

いまでも災害率は一番高い

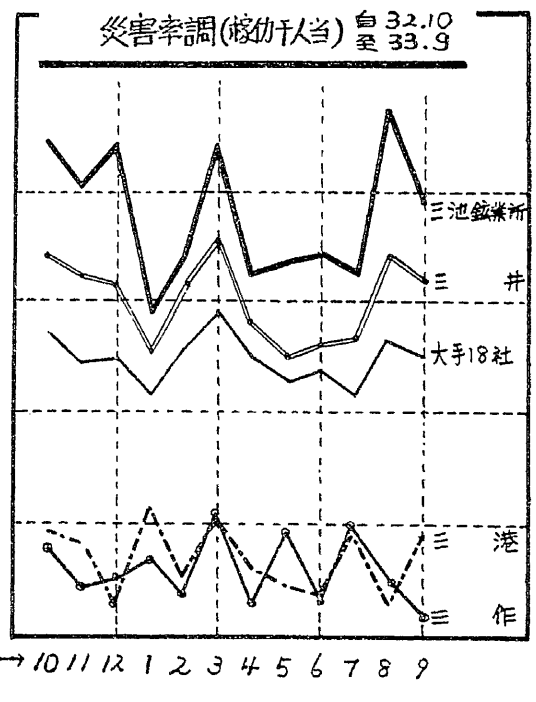
右のグラフで見るように三池のはとくにそれが、ひどかつたということがいえます。

会社は資材や設備の費用を節約し職制を強めて文句をいわせない職場にしようとしており、それとともに、人べらしによつてますますよけいに働らかせようとしているからです。

これでは「保安優先」は守られずますます私たちの生命が危険にさらされなくなります。

私たちの命は、私たちの力で守らないと、決して会社は守つてくれません。

だから、みんなと力を合せて、こんなでたらめな「提案」をつぶさねばならないのです。



※三井は港務、製作を除く
※1人1カ月当出炭量。
※各社能率は指定統計による。

なお、再建案がとおるといま以上に災害が、多くなることが考えられます。

能率はうなぎのぼりに上る

三池の組合員は仕事はせずに、人一倍もんくをいう。「三池は三井がひくい」「三池は能率がひくい」とケチをつけています。ところが、「能率」はただおもてむきの数字だけでくらべられるものではありません。

三池は他所とはたいへん自然条件がちがつているのです。

㋑坑道維持や排水、通気作業などに必要な間接夫の数が多いのです

㋺臨時夫や請負夫が、例えば三池の四%にたいして三菱は二〇%といつたように、きわめて少い（臨時夫や請負夫の数は能率計算の場合数にいれないので、臨時、請負夫が少いほど能率は低くみえる）

㋩坑口から作業現場までの道中が長い。

㋥一斉一時間休憩は完全に実施している。

こんな条件をかんがえると、G表でもわかるように、三池の能率は決して低くはないのです。

会社は、人べらしをやつた上に、いまの一日約八千トンの出炭を、一万トン以上に引上げたいというのですから、会社のいいなりになれば一人当の能率は二〇トン以上にもなり、まつたくうなぎのぼりにたかくなるのです。

私たちはことあるごとに会社から三池は能率が低いときかされていますが、実際は決して低くはないのです。これによつて職場闘争などを遠慮させるようにしむけるのが、会社の狙いでもあるのです。

悪くなる福利厚生

会社は次のようにいつています。

イ、起業工事費はこれから当分の間、延期したいということですだから、いままで団交で約束していた社宅の新築や、その他病院・浴場・保育園・集会場・講堂などの増改築のような大きな工事は全部とりやめになります。

ロ、特殊営繕工事は全然やらないか、または一般営繕工事費のワク内でやつてくれということです。そうなると、いままで実施していた雨もれ修理や、各戸水道、道路の補修、排水工事などは、こんど一切やめるか、または一般営繕工事費をけずつてやらなければならなくなります。

ハ、一般営繕工事についての会社のいい分は、社宅その他の建物の維持・保存のうえからも必要だが、当分の間は最小限にとどめたいというのです。

いままでの実績（三十三年上期）では四千九百万円ほどありました。われわれは地域分会などで話合いながらフスマの張り替えやガラスの入替え、タタミ替えなどをしてきましたが、いままでどおりに工事をすると、特殊営繕工事でやつていた雨もれ修理や、各戸水道などは一切できなくなります。またやるとすれば、その分の金額だけ四千九百万円のなかから差引かれることになつてガラスの取替えなどの工事がいままでどおりやれなくなります。

会社が提案した内容は以上のとおりですが、これはたいへんなことになるのです。

例えば、雨がもれば雨もりの修繕はするが、雨戸や窓ガラスがいたんでいても、それは〝ガマン〟してくれということです。

いつたい、われわれの住居はどうなるのでしようか?。いまでさえも当の〝納屋〟があり、古くさくて狭いところにおしこめられているのです。

会社は「やれ出勤が悪い」「能率が低い」などといいがかりをつけていますが、まつたく勝手ないい分です。